

「殺生石」物語考

プロローグ

「殺生石」は那須町湯本温泉郷にあり、昔から世に広く知られた観光名所である。その、何トンもあるのかという巨石は、注連縄に胴を巻かれて敬われながら、賽の河原のような傾斜地に、崩落しそうな姿勢で危なげに鎮座している。その下方の、なだらかな斜面の広がりには、大小さまざまな岩石が寝転び、それらを曲折しながら、木道が敷設されている。この場所では、毎年五月に『御神火祭』が行われ、多くの観光客を集めている。

芭蕉の『おくのほそ道』には、「殺生石は温泉の出る山陰にあり。毒気いまだほろびず。蜂蝶のたぐい真砂の色の見えぬほどかさなり死す」とあり、過剰な表現ながら、百年前にこの地を訪れた芭蕉が、肌で感じた現地の様子を、文学的表現で見事に活写している。今は、硫化水素の噴出も少なくなっているが、それでも、狐やカラスの屍が時々、巨岩の陰で発見されている。

殺生石の北方、やや左手に茶臼岳の雄姿、右手東方は熊笹が覆う急斜面、左手西方の高台に



は那須温泉神社が、そうして背後の斜面を下って行くと、そこには、那須温泉を代表する「鹿の湯」温泉場がある。

九尾の狐にまつわる「殺生石」の話は、史実ではなく、伝説であり、物語である。が、この物語には、虚実を曖昧にする魅力がある。

次回からは、物語の内容と物語が那須の地に結びついた歴史的背景、また、その発生年代や物語として完成されていく時代の経緯、そういう、歴史と文学の世界に分け入りたい。



筆者 前那須歴史探訪館 館長

齊藤 宏壽 先生(湯本在住)

今月のひとこと

どのような運命が待っているのだろう

未知なる三百六十五日

かつこう

町民憲章がそうであるように、町の紹介をするとき「那須連山と八溝の山なみにはぐくまれた」という表現がよく使われる。大和須から林道八溝縦貫線を登りきり急に視界が開けると、この常套句を実感できる場所がある。那須の展望台からどこまでも続く広大な関東平野を見渡して、我が家はどこかと探す気分とは少し違い、

八溝の山から広がって見える景色は、二つの山の間で生きてきた小さな町の、ふるさとの風景だと感じる▼今月7日、文化センターで平成30年成人式が開催される。昨年はきゅーびーやアルパカ、那須ブライゼンが会場で参加者を出迎えた。新成人数名が実行委員となって企画するオープンングアトラクションで会場は盛り上がり、本町ならではの工夫が詰まった式典で、新成人の門出を、和やかな雰囲気祝福す

る。それに応えるように、新成人たちが慣れ親しんだ「町民の歌」をはにかみながら歌う▼澄んだ空気の中、八溝のてっぺんから青い空と那須連山を望み、ふるさとの街並みを眺める。『あの空はわがふるさとの空わが那須町よ』『町民の歌』の歌詞を心の中でたどりながら、新成人には、世界を見据える広い視野と、生まれ育ったふるさとを大切に守る心を、いつまでも持ち続けてほしいと願う。

こんにちは

赤ちゃん



斎藤 雪希 ちゃん
(大谷)

平成29年
4月12日生

父 大輔さん 母 好美さん

雪希ちゃんは…

ゆめときぼうでいっぱいの子です！こう見えて女の子です！

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは総務課広報聴係(☎72-6901)まで。

町の世帯と人口

(12月1日現在・住民基本台帳)
()の数字は前月比

・世帯数 10,277世帯 (+17)
・人口 25,642人 (-14)
男 12,694人(+11) 女 12,948人(-25)

あなたの「声」をきかせてください

地域の身近な情報や、広報「那須」の感想・ご意見をお待ちしています。お名前と連絡先とともに下記までお寄せください。